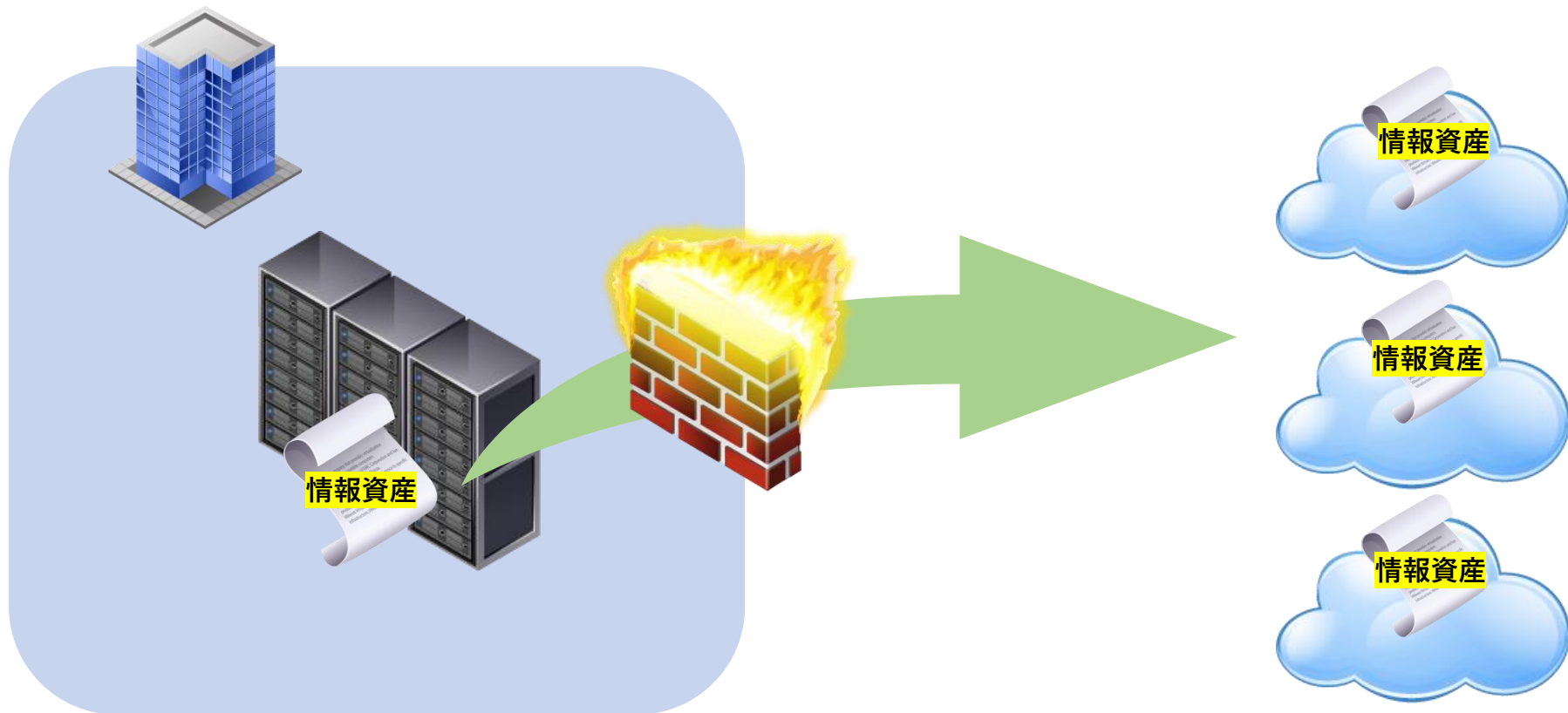


社員任せのクラウド管理はハッカーから見るとカモがネギ背負っています





社内と社外ではセキュリティ対策の考え方に違いがあります

社内に情報資産がある場合

- ❑ 自社で物理的なセキュリティ対策を行う必要がある
- ❑ サーバーやネットワークの保護を自社で担当する
- ❑ ソフトウェアの更新やパッチ適用を自社で管理する
- ❑ 成長に対応するためにサーバーやネットワーク機器の構成を見直す
- ❑ 不正アクティビティの監視やログ分析を自社で行う必要がある

社外に情報資産がある場合

- ❑ 信頼性の高いクラウドサービスを選定する
- ❑ クラウドサービスで取り扱う情報資産の重要度を把握する
- ❑ アカウントへの不正アクセスを防止するために、強固なパスワードを使用する
- ❑ 従業員のセキュリティ意識を向上させるための教育を実施する
- ❑ アクティビティの監視とログの保管を行い、不正な動きを早期に検知する

情報資産があるクラウドサービスの管理や運用を社員に任せてしまうと...

勝手にクラウドサービスを契約してしまう

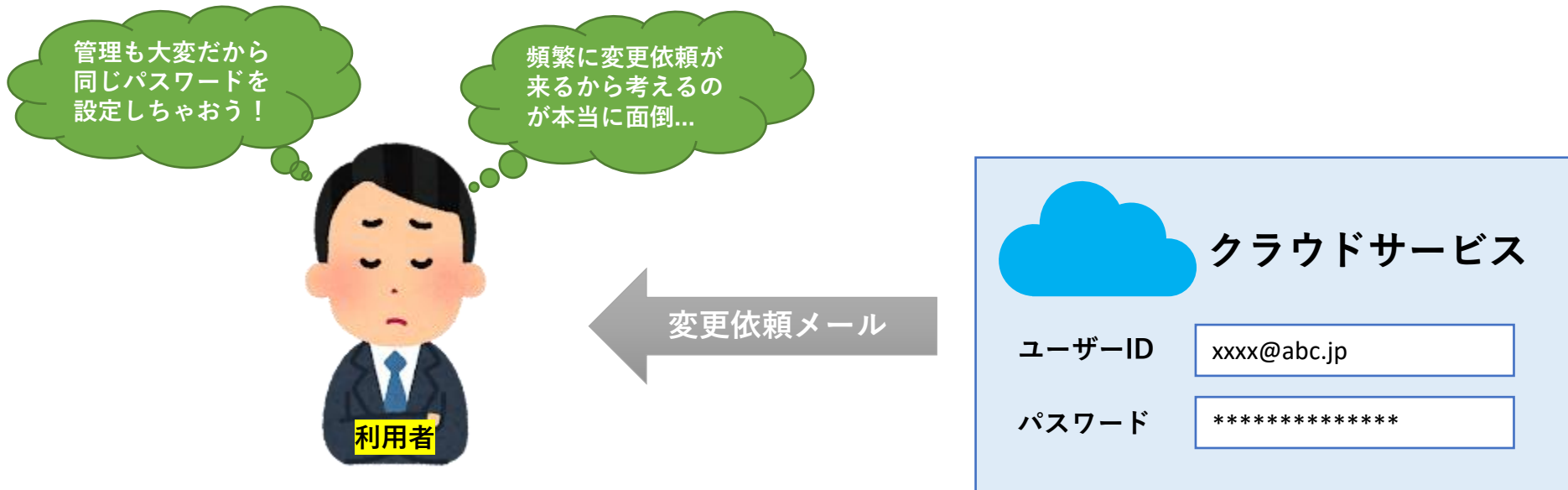
クラウドサービスは導入が簡単なので、業務効率や生産性を重視して現場レベルで勝手にサービスを契約してしまうことがあります。



アカウントの漏洩、情報資産の分散、サービス停止、サポート不足のリスクを引き起こす可能性があります

簡単なパスワードをや同じパスワードを使い回す

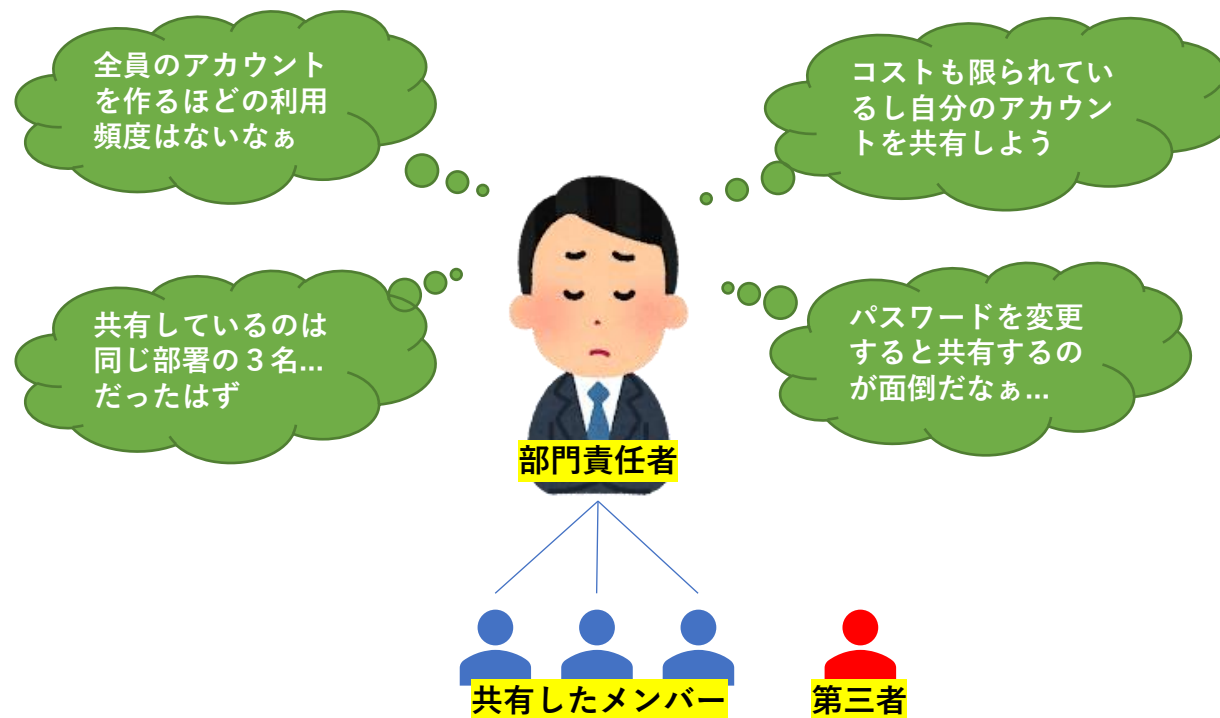
定期的なパスワード変更の依頼が届くと、利用者は簡単なパスワードや、他のサービスで使っているパスワードを使い回してしまう可能性があります。



推測されやすいパスワードの使用には、不正アクセスやパスワードクラック、アカウント乗っ取り、データ漏洩などのリスクがあります。

1つのアカウントを複数名で共有

業務連携や、コスト削減の目的から1つのクラウドサービスのアカウントを複数名で共有してしまう



共有の問題からパスワード変更をしないことによる漏洩するリスクや、不正利用の特定が困難になります。

複数の人が同じアカウントを使用することで個別のユーザー特定が難しくなり、ログの追跡や監査が困難になる

**クラウドサービス**

ユーザーID

パスワード



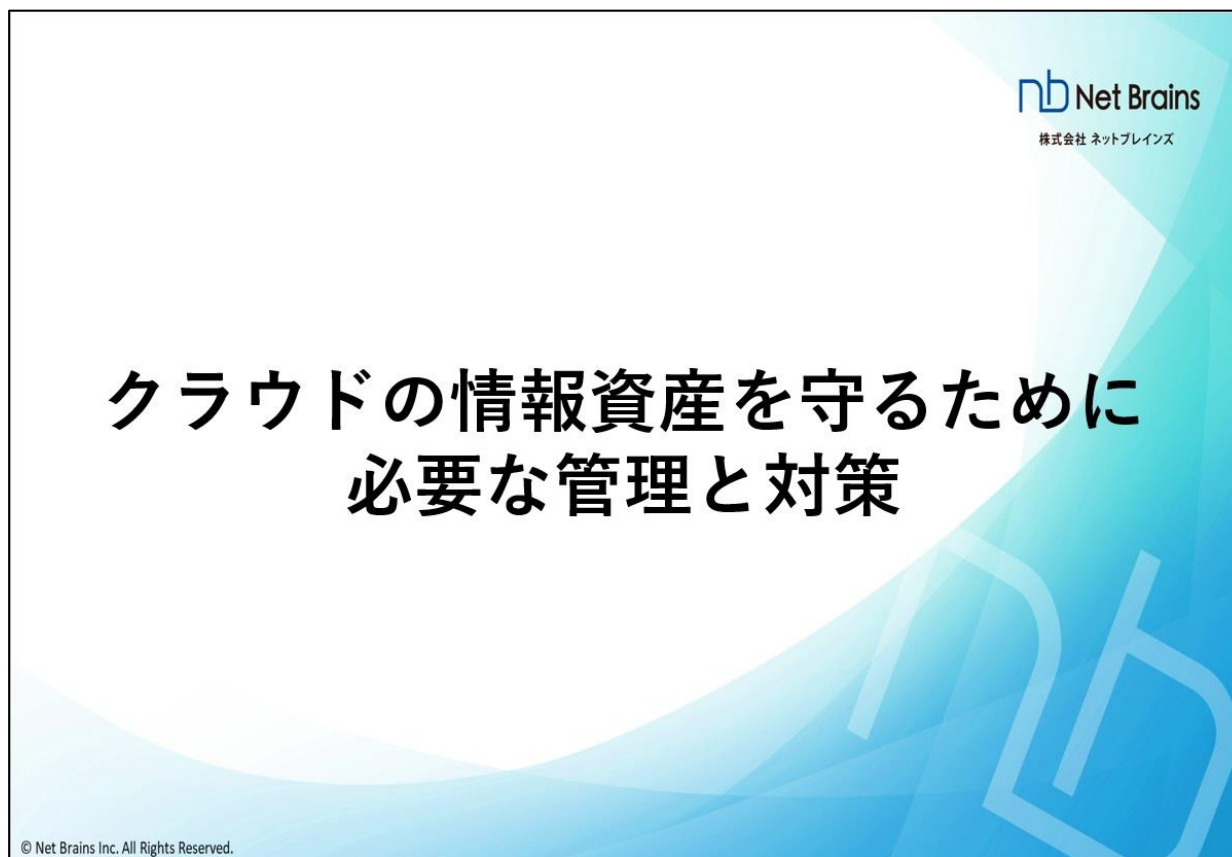
イベントログ

Date	Time	ID
5/1	9:00	xxxx@abc.jp
5/1	9:30	xxxx@abc.jp
5/1	10:00	xxxx@abc.jp
5/1	13:00	xxxx@abc.jp
5/1	15:30	xxxx@abc.jp
5/2	9:00	xxxx@abc.jp
5/2	10:00	xxxx@abc.jp
5/2	23:50	xxxx@abc.jp
5/8	9:00	xxxx@abc.jp
5/8	9:30	xxxx@abc.jp
5/8	15:30	xxxx@abc.jp
5/8	17:30	xxxx@abc.jp
5/9	9:00	xxxx@abc.jp
5/9	10:00	xxxx@abc.jp
5/9	13:00	xxxx@abc.jp
5/9	14:00	xxxx@abc.jp
5/9	16:00	xxxx@abc.jp

全員同じ...

誰が何をしたのか正確に特定することが難しくなり、異常なアクティビティの検知が妨げられる可能性があります

具体的な解決策を下記資料にまとめておりますのでこちらも是非ダウンロードしてご覧ください。



ダウンロードはこちら